

東京エリア Debian 勉強会

Debian 勉強会幹事 上川 純一
2007 年 6 月 16 日



1 Introduction

上川 純一

今月の Debian 勉強会へようこそ。これから Debian のあやしい世界に入るといふ方も、すでにどっぷりとつかっているといふ方も、月に一回 Debian について語りませんか？

目的として次の二つを考えています。

- メールではよみとれない、もしくはよみとってられないような情報について情報共有する場をつくる
- Debian を利用する際の情報をまとめて、ある程度の塊として整理するための場をつくる

Debian の勉強会といふことで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがりとするスーパーハッカーになった姿を妄想しています。

Debian をこれからどうするといふ能動的な展開への土台としての空間を提供し、情報の共有をしたい、といふのが目的です。



今年勉強会レポート

目次

1	Introduction	1
2	最近の Debian 関連のミーティング報告	3
2.1	東京エリア Debian 勉強会 28 回目報告	3
3	Debconf 2007 各種討議内容	5
3.1	6 月 16 日の発表内容	5
3.2	6 月 17 日の発表内容	5
3.3	6 月 18 日の発表内容	6
3.4	6 月 19 日の発表内容	7
3.5	6 月 20 日の発表内容	8
3.6	6 月 21 日の発表内容	8
3.7	6 月 22 日の発表内容	8
3.8	6 月 23 日の発表内容	9
3.9	講演以外のできごと	10
3.10	来年の Debconf	10

2 最近の Debian 関連のミーティング報告

上川 純一

2.1 東京エリア Debian 勉強会 28 回目報告

東京エリア Debian 勉強会参加報告。5 月の第 28 回東京エリア Debian 勉強会を実施しました。

今回の参加者は前田さん、やまねさん、出井さん、kinneko さん、hamano さん、小室さん、鈴木さん、武藤さん、山下さん、あけどさん、岩松さん、noriaki sato さん、山本浩之さん、山辺義孝さん、本庄さん、キタハラさん、鈴木邦男さん、えとーさん、荒木さん、David Smith さん、Charles Plessy さん、後藤さん、上川の 23 人でした。

最近のイベントの紹介として、最初に前回の報告を行いました。前回は主要な分散バージョン管理ツールについての特集でした。

DWN クイズを今回も実施しました。全員に起立してもらい、グー・チョキ・パーで選択してもらいました。1 問目は一人しか正解しませんでした。alioth にて、git は昔からサポートされており、今回サポートが追加されたのは Mercurial です。しかたないので、2 問目からしきりなおし、最後まで 4 人ほどのこりました。勝者には上川からここには書けないような豪華景品を贈呈しました。おめでとうございます。

次に、Debian Conference に向けて実施している準備の紹介を行いました。pbuilder と superh についてのプレゼンテーションを行うことになっているのですが、リハーサルとして、Debian 勉強会にて今回内容を説明しました。

最初に pbuilder について上川が紹介しました。Debian ソースパッケージを処理してバイナリをつくる際に、クリーンルーム環境を利用する、その手順をまとめたツールです、ということを紹介しました。

次に岩松さんが Debian の superh の移植版の紹介をしていました。過去の歴史について力をいれて紹介していました。

kinneko さんが SH2A 版のポートをやっている人もいるので紹介するのがよいだらうという指摘をしました。

上川の感想ですが、Debconf で紹介する目的として、新しい開発者を募集するのが目的なのであれば、歴史については簡単にまとめてしまって、SuperH の開発に使える機種の情報や何が面白いのか、現状のポートのステータス、連絡先やレポジトリやウェブサイトの情報、どういう課題があるのかに力をいれて紹介するのがよいのではないかという印象をうけました。

小室さんがその後に「サーバをエッチにしてみました」という題でネタを披露しました。いろいろとトラブルがありそれを解決しました、ということだったのですが、「エッチにアップグレードするのは簡単だということがわかりました」というので話をしめたので一同爆笑しました。

いつもとタイミングを変えてみて、その後に事前課題の紹介を行いました。内容は「エッチになって困った事」にしてみました。みんないろいろと思うところがあるようで議論が沸騰しました。webmin がなくなったこと、xlock がないこと、xorg になってしまい設定が大きく変わっていること、udev の使いかたがよくわからないこと、カーネルがアップグレードするのでカーネル関連の問題 (ACPI など) にぶつかる可能性があること、などが話題にでました。/var/lock/apache2/ の権限が www-data ではなく root になってしまっているのを webdav で書き込めないこ

となどが紹介されていました (Bug#420101^{*1})。apt-setup が削除されているのも仕様ですね。CUI で sources.list を編集するツールがあるのか? という話題が出ましたが、vi をつかえ、と。

エッチにアップグレードする際に、どうやってみんなは情報をえていて、どういうふうに情報を提供しているのだろう、という話をしました。リリースノートを読むだとか、バグレポートを探すだとか、ML に投稿するだとか、建前はおいておいて、現実のフローがどうなっているのかを語ってみました。どうやら、問題があれば IRC でまず質問してみて、google で検索してみて、いろいろとためした結果を blog に書いている、というのが現実的なようです。そして、2ch などと同様の質問がされたら、blog で書かれている内容をまとめなおしてスレッドテンプレにまとめなおされるという流れになっているようです。言語が英語である点などから BTS は敷居の高く感じている人が多いようで、また複合的な問題はパッケージ単位でしか登録できない BTS にはすぐわないため、そういう情報の流れになっているようです。現実を見据えて今後どうしていきべきか、悩ましいところです。

今回は宴会は時の居酒屋 刻 荻窪店にて開催しました。料理がおいしかったです。

^{*1} <http://bugs.debian.org/420101>



3 Debconf 2007 各種討議内容

岩松 信洋、矢吹 幸治、上川 純一

2007 年度の Debconf は 6 月 13 日から 6 月 23 日まで、スコットランド、エジンバラで開催されました。2007 年度の Debconf の討議内容を以下にまとめます。

3.1 6 月 16 日の発表内容

3.1.1 simple-CDD

CDD を簡単に準備できる仕組み。reprepro を使ってミラーを作成している。debpartial などとはうまくいかないことが多かったらしい。会場からはなぜ aptitude とかを利用しないのかという質問は出ましたが、そこまで検討していない、とのことでした。

--qemu オプションを指定したらイメージを作成して qemu でテストするところまでしてくれるそうです。build-simple-cdd コマンドを使えば簡単に CDD がつくれるそうです。

3.1.2 64studio

Debian ベースの音楽関係のソフトウェアを収録した CDD(Common Debian Distribution) です。各音源を組み合わせ、音を組み上げていく Jack というプログラムの説明などをしていました。イコライザーとして Jamin を利用し、出力の周波数特性をフリーハンドで変えることができるデモをしていました。また、PC のキーボードをつかって、パイプオルガンシミュレータ aeolus の (鍵盤の) キーボードを使って演奏するデモもしていました。

3.2 6 月 17 日の発表内容

3.2.1 Welcome talk

開会の挨拶。スポンサーと開催にかかわってくれた人たちへの感謝のコメントを行いました。非常にシンプルに終わった開会式でした。

3.2.2 About porting SuperH for Debian

Renesas 社製 CPU SuperH の Debian へのポーティングの話でした。SuperH を Debian にポーティングしている途中経過と現在発生している問題、および今後の課題について話し合いました。組込み関係の人が参加してくれていたが、みな ARM にかかわっているので直接の支援は難しそうな印象を受けました。

3.3 6月18日の発表内容

3.3.1 bugs.debian.org and debbugs

BTS の開発についての進捗報告でした。いろいろな機能が追加されているのですが、歴史的経緯で done 状態の遷移とバージョントラッキングで問題が解決しているかどうかという状態の遷移に整合性がとれないようになっているという話題がでました。この部分については互換性をなくしてでも解決してよいのではないかと、という議論をしました。また、SOAP インタフェースの新しい機能の紹介などもありました。

3.3.2 Embedded Debian

Debian の組み込み向けプロジェクト Emdebian の話です。今まで行ってきた方法の説明と結果を報告し、今後の方向性について話しをしました。現在の ftp-master 達はクロスビルドは受け付けてくれません。この問題を解決するためにパッケージにタグを付けたりして対策する予定とのこと。Embedded 用のツールも用意しており、これらを使ってクロスビルドできるようになりました。しかし、全てのパッケージはチェックできず

```
make check
```

や

```
make nodocs  
make nocheck
```

を使うように修正する必要があることを提案しました。その他の問題は後日行われた BOF で議論されました。

3.3.3 Debian Live

Debian のサブプロジェクトとして活動しています。ツールは Ubuntu の casper から fork して作成したものです。国際化も国コードやキーボードを入れるようにするみたいです。自分で会社を興して、キオスクシステムのために開発をしたとのこと。また、usb ブートなどもサポートしているので、コンピュータ本体に情報が残らなく、銀行などからも引合があると話していた。こちらから i18n に関連した質問をしたら、日本の市場に興味があるようで、あとで、すでに作ってあった日本用の CD イメージを見せてくれました。

<http://download.webconverger.com/i18n/jp/webc-2.21.jp.iso> からダウンロードできます。

3.3.4 Debian Armel Port

Armel の Debian へのポーティングの話でした。

3.3.5 OpenStreetMap

Free な地図をつくるためのプロジェクトの話です。Google Map がすでに存在していますが、DFSG-Free ではないので、GPS 等を使って、自由に扱える地図をつくるということが目的です。ライセンスは Creative Commons を採用しています。

<http://www.openstreetmap.org>

3.3.6 Wacky Ideas II

Wacky Ideas というのは、こんな凄いこと考え付いちゃったぜというのを、ディスカッションしてまともなものにしていく、ブレンストーミング系のセッションです。

口火をきったのは、Ian Jackson による upstream, ディストリビューション, 派生ディストリビューションで無駄なことしてないか? これらを含むような VCS (Version Control System) って作れないか? って話。

次は、Ubuntu の言語パックのように、翻訳 deb を作るべきかと言う話題でした。この方法は翻訳の部分が小さいのであればオーバーヘッドが大きすぎる。そのためパッケージをまとめて扱うことになるだろうとうことでした。極端

なやり方として Ubuntu は、(1 つで) 100MB のパッケージとして対処しているということです。

3.4 6月19日の発表内容

3.4.1 Debian virtualization support

Debian での仮想化ツールサポートの話です。あらゆる仮想化のシステムをサポートし、それらをサポートするための独自のツールを開発していることを紹介しました。また、仮想化ツールを使った、Debian パッケージのメンテナンスの話をし、ユーザー側だけでなく、開発者側から使い易くするために行っている活動をアピールしていました。

3.4.2 From Concept to Concrete

ハードウェアの企画、提案、そしてできるまでを、Daniel Silverstone と Vincent Sanders がコント風で行っていました。自分たちのハードウェア設計会社の紹介をしたかっただけなのかもしれないです。

3.4.3 PC Install and Backup Management

発表者が来れなかったので、集まったみんなでディスカッションして進めることになりました。まず、みんなどんなツールを使っているかと言う話題になりました。

unstable に、boxbackup というソフトウェアがあるから使っているという人から、mondo, rsync, cpio, tar などを使っている人もいました。また、サーバ上でシステムをバックアップするために lvm-snapshot を使わないといけないうんだという人は、Mysql のデータベースの同期機能を利用していました。

つぎに話題は、d-i (Debian Installer) を使って、大量にインストールする話題になりました。preedit を使って同じようにインストールする手法や、FAI を使う方法などができました。

3.4.4 Debconf 9 Presentations

Debconf 9 のプレゼンテーションです。Debconf 8 はアルゼンチンに決定しているが、Debconf 9 はまだ未定です。このセッションでは、Debconf 9 の立候補地域によるプレゼンテーションを行いました。現在のところ、立候補地はスペインの Extremadura のみです。食事施設や宿泊施設が充実しており、プールもあるとのこと。この流れだと Debconf9 は Extremadura に決まりそうです。詳細は <http://wiki.debian.org/wiki/Extremadura> からみることができます。

3.4.5 Emdebian BOF

Debian の組込向けプロジェクトである Emdebian の BOF でした。uClibc のサポートおよび、busybox をベースにしたユーザーランドのサポートについて議論しました。既にサポートの体制を整えるようにしているが、uClibc をサポートしてしまうと、uClibc 用のバイナリを作成する必要があるので、バイナリの数が倍になってしまいます。この問題をどのように解決していくか、今後議論を重ねていくとのことでした。

Busybox の話は、busybox をベースにした場合、動くパッケージと動かないパッケージが出てしまいます。これは busybox をベースとして使用しているため発生する問題です。組込みでは busybox の base system を考える必要があるため、現在どのパッケージが動かないのかを調査している段階です。調査した結果は wiki にまとめられています。 <http://wiki.debian.org/EmdebianRootfs>

3.4.6 Keysigning Party

今年は、キーサインに集まった人達を 4 つのグループに分けて、各グループを大きめの部屋で分割してキーサインを行いました。全員がキーサインをするには巨大な場所が必要だったので分割したのでしょう。

キーサインには finterprint を印刷した紙が必要です。そこに計算した sha1 の結果を書き込んで持参するのですが、その値 (sha1sum 出力) が読み上げられ、同じ結果が出たことが確認できた人だけが書名できます。

各人は国家の発行する公的な写真つきの証明書 (例えばパスポート) を見せ、fingerprint, sha1 の計算結果について

確認していきます。

分割したおかげか今年は 30 分程度で終わりました。

3.5 6月20日の発表内容

3.5.1 Daytrip

Debconf では一日、参加者で旅行をするというイベントがあります。今回の Debconf では Rotheway (Bute 島) でまったりとピクニックをしました。Rotheway への移動は、Edinburgh から Glasgow へ電車で移動し、Glasgow からさらに電車で Wemyss Bay へ移動します。Wemyss Bay は Rotheway 行き専用の舟着き場で、そこから船に乗って Rotheway に移動しました。

Rotheway の町は島で、特になにもないところです。ほとんどの建物は売出中で、裁判所の建物も売りに出ていました。財政がやばそうな感じです。建造物としては、教会や、バイキングの侵略の際に戦った城がありましたが、修復中でしかも工事は止まっていました。山の奥へ1時間ほど歩くと、湖があり、大抵の参加者はその湖でピクニックをしたり、ボードに乗って遊んでいたようです。



3.6 6月21日の発表内容

3.6.1 Forking Debian every day

GNU arch でいかに SELINUX 版の Debian のポーティングを楽しめたか、というワークフロー紹介のセッションのはずでしたが、いろいろと技術的な障害があったようで、git で Debian のパッケージをメンテナンスするための方法をデモンストレーションするセッションに急遽変更されました。アプリケーションの各種機能を SCM のブランチの機能を利用して実装し、新しいバージョンがリリースされても SCM の機能が活用できる、という話題でした。

3.6.2 Quality assurance activities for localization

小林さんが提案を提出し通っていたのですが、なぜか Debconf7 に参加しなかったのと、報告・周知・対策を何も講じなかったため開催されるはめになりました。

急遽 IRC で現地と日本を結んで上川がセッションを行いました。フランス、ブラジルなどのチームでの翻訳の進め方やツールの使い方についてディスカッションを行いました。メーリングリストをスキャンしてくれるロボットツールがあり、日本翻訳チーム向けに使えるように調整してくれるとのことでした。

3.6.3 Debian ceilidh/Sun Drinks Reception

Sun Microsystems と Google のスポンサによるパーティでした。Sun が飲み物、Google がピザを提供してくれました。また、スコットランドの民謡の演奏家を呼び、大ホールに集まったパーティ参加者達でスコットランドのダンスを楽しみました。



3.7 6月22日の発表内容

3.7.1 Derivatives Round Tables — Debian より派生したディストリビューション

Benjamin “Mako” Hill が司会を務める、Debian より派生したディストリビューションの関係者が集まったのパネルセッションでした。ベネズエラで開発されている国の支援を受けたディストリビューション、スペインの Extremadura、Debian Edu, Ubuntu などが参加してきていました。予想どおり白熱しました。ディストリビューションからのフィードバックの部分が問題になっていました。BTS の共有などもト

ピックになっていました。

3.7.2 Proactive Bug Discovery

DPL である、Sam Hocevar のセッションでした。^{*2}ソースを全部チェックするのは非常にコストが高いため、クリティカルな部分だけは全部査読するが、ほとんどの部分は、ツールを使って機械的にチェックするだけもかなりのことがわかるということでした。

ソースコードを正規表現でスキャンしたり、google のコードサーチエンジンでチェックしたり、コンパイラーにチェックさせたりという部分について語ってくれました。

3.8 6月23日の発表内容

3.8.1 debian-community.org

Debian コミュニティに対する問題意識から、<http://debian-community.org> の提案セッションが行われました。Ubuntu コミュニティの事例からとったものです。Debian 開発者になり活躍するまでの時間がかかるのが問題意識となっています。その問題を解決するべく、debian-community.org というサイトを作り、Debian コミュニティ活動すると宣言し、活動している間はメールの転送などのサービスを提供します。活動が一定期間止まったら、この活動リストより外されます。他にも planet や、wiki などの提供を行う予定があります。

問題点としては、これまでのローカルコミュニティとの整合性、debian.org 本体もコミュニティであること、新しいコミュニティを作ってドライブしていきただけの魅力がそこにあるかなどが話し合われました。

3.8.2 WTFM, again: Write The Fine Manual page

Debian package で頒布されているプログラムには man が付属していないといけないということが Debian Policy で決まっているが、nroff 形式の man は時代遅れです。man だけでなく、あらゆるフォーマットに対応したドキュメントを容易に作成するにはどうしたいのか話し、DocBook XML を使った場合の簡単なチュートリアルを行いました。また、man はあるが、Linux の man ではなく、Unix の man だったりすることがあるので、ユーザーに man を提供する際に注意すべき事などを話しました。

Debian package で頒布されているプログラムには man が付属していないといけないということが Debian Policy で決まっているが、norff 形式の man は時代遅れです。man だけでなく、あらゆるフォーマットに対応したドキュメントを容易に作成するにはどうしたいのか話し、DocBook XML を使った場合の簡単なチュートリアルを行いました。また、man はあるが、Linux の man ではなく、Unix の man だったりすることがあるので、ユーザーに man を提供する際に書いてある内容が本当に妥当なのか確認すべき事などを話しました。

3.8.3 pbuilder talk

上川 純一 が pbuilder, cowbuilder, qemubuilder についての議論を行いました。pbuilder を利用しているユーザーは非常に多いが、qemubuilder の利用者は数人もいなかったということがわかりました。また、マニュアルの存在を知らない 人が多数いました。

3.8.4 Lightning Talks

ライトニングトークは若干オーガナイズに失敗しており、最初計画していたメンバーがあまりいなかったため、好きな人が好きなことを語るという会になってしまいました。

3.8.5 Closing ceremony

最後のしめの挨拶がなされ、スポンサーに感謝したりしました。

^{*2} このセッションの英語は矢吹にはわかりやすかった。

3.9 講演以外のできごと

3.9.1 apt-listbugs 関連の討論

Don Armstrong がきており、bugs.debian.org の SOAP インタフェースを拡張した、といました。apt-listbugs の実装を変更し、SOAP インタフェースを利用するようにし、現在サーバ側で生成しているインデックスファイルが、もう必要ないようにしました。現地で SOAP インタフェースのデバッグを実施し、実用になるようにしました。

また、debian-changelog-mode に以前パッチをおくってくれた Luca Capello と BTS の HTML をパースしているからださいんだよ、という話をしたら、SOAP を emacs からつかうのはいやなので、apt-listbugs を使おうという話になり、apt-listbugs list コマンドを拡張して実装することになりました。しかし、それが実装されるまえに、vim のメンテナ Stefano Zacchioli がその話をうしろで聞いていて、その場で vim 用の debian/changelog での closes: 補完コードが実装されてしまいました。

3.9.2 QEMU 関連の討論

上川は qemu、qemubuilder 関連であつく議論してまわりました。

Thiemo Seufer (QEMU mips ポートのメンテナで QEMU のコミッタ、および Debian の MIPS ポートのメンテナ) と議論しました。chroot 内部での qemu user emulation をいかに static link をしないで実施するのか、という点について議論し、環境変数を定義する必要があるね、ということで合意しました。

夕食の時間で Ottavio と議論し、qemubuilder の設計と、qemu system emulation ではなく qemu user emulation での実装について議論しました。

3.9.3 矢吹 × grisu

apt に i18n 機能がマージされたのにまだサーバ側のインフラの整備が行われていません。矢吹は DDTP の担当者の Grisu と DDTP の展開について議論しているようでした。なんらかの成果がでるとよいですね。

3.10 来年の Debconf

来年の Debconf はアルゼンチンで 8 月に行われます。日本は夏ですが、アルゼンチンは冬です。冬期合宿になると思いますので、気合いをいれていかないと、ひどいことになるかもしれません。気を付けましょう。

下ヒアノ勉強会



Debian 勉強会資料

2007年6月16日 初版第1刷発行
東京エリア Debian 勉強会（編集・印刷・発行）
